令和8年度第1回防災会議　資料3

つづくを、つなぐ。

柏市地域防災計画改定案
及び
柏市防災タイムライン案について

10/22　令和8年度第1回防災会議

危機管理部

柏市
KASHIWA CITY

つづくを、つなぐ。

本日の説明事項

1　地域防災計画改定等の進捗状況

①　計画改定（計画本編・タイムライン・アクションプランへの分解）の目的・概要

②　計画・タイムライン改定・策定のポイント

ア　地域防災計画（計画の大綱化／国県の防災に関する最新動向の反映/市の防災体制の充実・強化）

イ　防災タイムライン（作成の目的/タイムライン案/作成後の運用方法）

ウ　地域防災計画・防災タイムライン（多様な意見の反映）

③　柏市防災体制構築へ向けたロードマップ

① 計画改定（計画本編・タイムライン・アクションプランへの分解）の目的・概要

つづくを、つなぐ。

MISSION

市民・職員が動ける防災体制をつくる

柏市防災1.0



構成要素の全項明示

柏市の地域防災計画として必要な構成要素を全て文字として明記した防災

柏市防災2.0

実践・時限目標型の追及

情報量を精査し、簡潔、明瞭な分かりやすい計画を目指した防災



柏市防災3.0

市民・職員が動ける防災

柏市における防災と災害対応を自助・共助・公助の観点で能動的に動ける防災を目指す

柏市防災4.0

防災・減災へ向けた進化

MISSION

柏市防災1.0で項目の洗い出し、柏市防災2.0で全てを1冊に纏めたものから、柏市防災3.0では**市民・職員等が「動ける防災」**を目指す。

- ✓ 自助・共助・公助に関わる人が動ける基準をつくる
- ✓ 予防～応急～復旧のフェーズごとにそれぞれ責務を与える
- ✓ 市民と町会と行政等が共通の敵に立ち向かうためのチームづくり

① 計画改定（計画本編・タイムライン・アクションプランへの分解）の目的・概要

“現行” 柏市地域防災計画における課題

	柏市地域防災計画の構造的な弱点	構造的な弱点の理由
1	**市民行動の“判断基準”が計画に明示されていない** Ex.避難のタイミング・行動が不明確な部分があるので、避難判断が遅れる	**市民の行動に対する具体性が不十分** Ex.現在の地域防災計画では、市民の動きを十分に考慮した設計になっていなかった
2	**職員行動が“過去の経験”に基づく対応になりがち** Ex.誰が、いつ、何をすべきかが体系立てて整理されていない部分があるので、初動から対応が混乱することが想定される	**職員の行動が時系列での具体性が不十分** Ex.注意報 → 警戒 → 警報レベル に応じた行動が具体的に記述されていない部分がある
3	**横に繋がらない計画になっている** Ex. 関係機関の動きの把握が難しく、災害対応の遅れや非効率化の恐れ	**関係機関を横断した連携性が不十分** Ex.情報・担当・判断基準が災害種別ごとに分断されているので、統一感に欠ける
4	**自助・共助・公助のそれぞれの役割が不明確** Ex.柏市の防災計画の中で自助・共助・公助に対する役割を明確に記載できていない為、人によって捉え方が異なる	**自助・共助・公助の役割と責任範囲の整理が不十分** Ex.自助・共助・公助の理念は示されているものの、災害時における具体的な行動基準や責任範囲まで設計されていない

① 計画改定（計画本編・タイムライン・アクションプランへの分解）の目的・概要

柏市地域防災計画を中心に防災関係資料を整理

抽象的

具体的

【公表】

改定

柏市地域防災計画

災害への予防・対応方針

柏市地域防災計画はコンパクトに

- 方針・理念・責務・原則に絞る
- 誰でも読める構造にする
- 各種防災関係情報は「資料編」として整理

対象：市民・災害対応機関等

対象：市職員

【公表】

市民等の具体的な手順を網羅

策定

柏市防災タイムライン

相関関係

職員の具体的な手順を網羅

策定

職員アクションプラン

【非公表】

- ✓ 市内部における災害対応マニュアルのため

市民と行政等の行動が連動

“市民の動くタイミング”を明確化

- 予防～応急～復旧で「いつ何をするか」を明確化
- 市民や災害対応機関が連携・連動

職員の災害対応を体系化

“職員の災害対応”を設計

- 職員の誰が・いつ・どのように動くか整理
- 詳細は各災害チームのマニュアルへ分離

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

ア　地域防災計画

つづくを、つなぐ。

☑ 方向性❶：計画を大綱化する

- 方針・理念・責務・原則に絞る
- 主体（主語）を明示して，責任範囲を明確化する
- 各種防災関係情報は「資料編」や「タイムライン」に整理

☑ 方向性❷：国・県の防災に関する最新動向を反映する

- フェーズフリーの考え方を明記
- 総則編に，防災ビジョン（目標）を明記

☑ 方向性❸：市の防災体制の充実・強化を反映する

- 市本部体制の見直し（総合調整室の設置等）
- 風水害時における職員配備体制の見直し

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

ア　地域防災計画

つづくを、つなぐ。

☑ 方向性❶：計画を大綱化する

計画全体構成の変更

- 災害対策に対する「総則≒考え方」「予防計画」に関しては，共通性が高くかつ平時並行して行う必要があることから「共通編」として再構成した
- 災害時の対応は，発生災害別に一貫して読むことができるよう，災害種別ごとに整理した

地域防災計画（現行）

- 震災編
  - 第1章総則
  - 第2章予防計画
  - 第3章応急対策計画
  - 第4章復旧・復興計画
- 付編南海トラフ地震臨時情報発表に伴う対応措置
- 風水害等編
  - 第1章総則
  - 第2章予防計画
  - 第3章応急対策計画
- 大規模事故編
  - 第1章総則
  - 第2章大規模事故対策計画※1
- 放射性物質事故編
  - 第1章総則
  - 第2章予防計画
  - 第3章応急対策計画
  - 第4章復旧・復興計画

※1：予防計画、応急対策計画含む

地域防災計画（改定案）

共通編	第1章　総則	災害共通の事項として 各災害の総則および平時の予防対策 を集約
	第2章　予防計画	
震災編　※2	第1章　応急対策計画	地震発生時の対応が 機能別で一見して分かるように再構成
	第2章　復旧・復興計画	
風水害等編	第1章　応急対策計画	風水害発生時の対応が 機能別で一見して分かるように整理 震災編の準用箇所を明記し，可読性を向上
	第2章　復旧・復興計画	
大規模事故編 ※3	第1章　応急・復旧・復興対策計画	大規模事故発生時の対応が 機能別で一見してわかるように再構成

※2　震災編に「南海トラフ地震臨時情報発表に伴う対応措置」を含める
※3　大規模事故編に放射性物質事故を含める

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

ア　地域防災計画

つづくを、つなぐ。

☑ 方向性❶：計画を大綱化する

各節内容の大綱化

例）応急対策計画

第３節　災害時広報

- 市及び関係機関は、憶測による人心不安や不正確な情報による社会的混乱を防ぎ、民心の安定を図るため、あらゆる手段をつかって市民等への情報伝達を行う。
- 市及び関係機関は、時間経過により変化する市民の情報ニーズに対し、適切な伝達手段を用いて、確実、迅速かつ繰り返し発信する

（１）　広報活動

ア　市による広報

- 市は、関係機関と連携して、情報伝達困難者も含めてすべての人に正しく伝わる的確な広報を行う。
- 市は、通信障害や電波の輻輳といった情報通信手段が使用できない場合であっても、障害等の影響を受けない通信手段を用いて広報を行うとともに、職員は災害対応現場で住民への情報提供活動を行う。

【資料編　●－●】市による災害時広報の内容

イ　関係機関による広報

- 柏警察署は、市及び関係機関と連携し、災害の状況・見通し、避難・救援活動、治安状況、交通規制等に関する情報を中心に広報活動を実施する。
- 東日本電信電話（株）は、通信途絶又は利用制限時に、利用者に対してその理由、内容、復旧見込み等の通信に関する情報を中心に広報活動を実施する。
- 東京電力パワーグリッド（株）は、利用者に対して設備の被害状況、復旧見込み、安全確保に関する情報を中心に広報活動を実施する。

節の目的・実施方針

- 節の内容を、抽象度高く包括的に表現
- 大綱的な内容となるよう，対応を行う目的を記載

具体的な対応内容

- 市・関係機関など主体別に実施事項を記載
- 変更の可能性が高い個別名称・数値等は記載しない
- 市民が取るべき行動は「タイムライン」に反映
- 職員が取るべき行動は「アクションプラン」に反映

これまで本編に記載されていた次の情報は，情報の特性に応じて関連計画に移動

①広報手段別の特徴→資料編に移動

	伝達手段	内容
1	防災行政無線	■全国瞬時警報システム（Ｊアラート）と連動し、震度５弱以上または長周期地震動階級３以上の揺れが予想された場合（緊急地震速報）、震度５弱以上の地震が発生した場合に自動放送される。適宜情報発信の際も使用。
2	ホームページ	■市が収集した災害情報及び応急活動の実施状況、避難所の状況を随時掲載。また、他自治体やボランティアへの人的・物的な応援要請・受け入れに関する情報発信にも活用。
3	かしわメール配信サービス	■市が収集した災害情報及び応急活動の実施状況、避難所の開設状況を定期的に、繰り返し配信。 ■ホームページへの誘導的機能。
4	緊急速報メール	■避難情報を配信。
5	X・LINE	■市が収集した災害情報及び応急救急活動の実施状況、避難所の開設状況を定期的に、繰り返し配信。 ■ホームページへの誘導的機能。 ■市民からの書き込みによる、迅速な災害情報の収集。
6	防災アプリ	■避難所の開設状況等を「Yahoo!防災速報」のアプリから発信する。スマートフォン端末の位置情 報を用いて、旅行者にも情報通知が可能。
7	広報車	■情報発信を必要とする地 域を中心に給水情報や物資配給情報の巡回広報。
8	消防団	■消防団車両の巡回等により、避難情報を広報。
9	テレビ	■NHK、千葉テレビ、J:COM等に柏市が収集した災害情報を提供。

②発災後の広報→資料編に移動
タイムラインやアクションプランに反映

ウ　広報の内容

地震発生直後から３日くらいまで

混乱防止　生存確認関連　生活支援関連

- 災害情報及び被災状況に関すること
  - 余震　・倒壊建物　・火災
- 注意喚起、避難情報の発令に関すること
  - 避難時の注意　・避難所開設　・福祉避難所受け入れ
- 二次災害防止に関すること
  - 出火防止　・人命救助の協力
- 市の災害対策活動体制及び活動状況に関すること
  - 安否確認　・応急給水　・食料、生活用品配給
- その他必要な事項
  - 医療機関の受け入れ　・公共交通機関　・ライフライン

３日目以降～生活再開時期

生活支援関連　被災者支援関連　応急・復旧対応

- 避難者、避難所向け生活・住宅関連情報
- 避難者及び在宅市民向け給水、食糧の供給に関する情報
- 医療機関の受け入れ・開設された医療施設情報
- 各種相談窓口情報
- 通信、道路、交通機関等の復旧、運行状況
- 業務を行っている行政サービス情報
- 義援金、支援金、租税の特別措置、雇用情報、罹災証明・被災届出証明の発行
- 安否不明者、遺体安置情報
- 市外避難者向け情報　■その他必要な事項

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

ア　地域防災計画

つづくを、つなぐ。

☑ 方向性❷：国・県の防災に関する最新動向を反映する

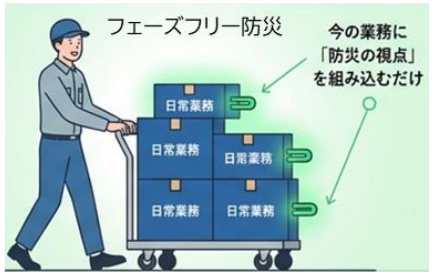
フェーズフリーの考え方を明記

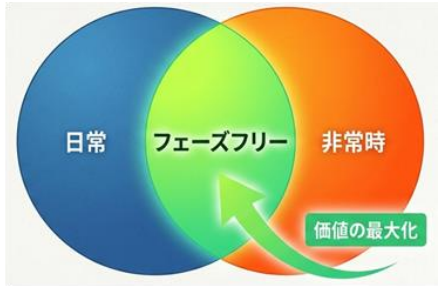
- 市民や防災関係機関，市などそれぞれの主体が、日常時と非常時を分けず，普段の取り組みや生活に「防災の視点」を組み込む考え方を明記

誰もが自分の役割を理解し、「災害時に動ける柏市」へ

《フェーズフリーのイメージ》







国：フェーズフリー等促進検討会で議論
県：令和7年度にフェーズフリーを計画に反映

身近なフェーズフリーの例

●日常で使いながら非常時に備える
＝ローリングストックの実践
普段から少し多めに食料品を買っておき，使用したら買い足すことで，常に一定量の食料品を家に備蓄して方法



●日常使用しているモノやサービス、何気ない行動が防災に
例）・モバイルバッテリーが災害時の予備電源となる
・位置情報サービスで災害時に近くの防災情報を確認、自分の居場所も伝えられる
・地域の行事に参加して顔見知りの関係が増えると、もしもの助け合いにつながる



≪内閣府による周知ポスター≫

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

ア　地域防災計画

つづくを、つなぐ。

☑ 方向性❷：国・県の防災に関する最新動向を反映する

総則編に防災ビジョン（目標）を明記

- 「事前防災の重要性」と「レジリエンスの確保」を明記し，被害軽減と迅速な復興を目指すことを明記
- あらゆる主体が連携する体制の構築，多様な視点を防災に反映していく必要性を明記

国・県ともに，基本理念・方針として記載

基本理念と基本目標

人命保護と機能維持

・基本理念：人命最優先のもと、被害を抑え社会機能の維持と迅速な回復に備える。
・基本目標：避難・応急対応・情報伝達体制を確保し、インフラ維持により早期回復を図る。

市民の主体性と平時からの備え

・基本理念：日頃から防災意識と地域防災力を高め、平時の取組を災害時の対応につなげる。
・基本目標：防災の自分ごと化を促し、地域住民組織の活動や知識普及で支え合う力を向上させる。

自助・共助・公助の連携

・基本理念：市民・地域・事業者・行政がそれぞれの役割を果たし、相互に連携する。
・基本目標：多様な主体の役割理解と円滑な連携を進め、要配慮者や男女共同参画に配慮した体制を確立する。

災害に強いまちづくり

・基本理念：誰も取り残さず、災害に強いまちづくりを推進する。
・基本目標：平時からの備えを積み重ねて被害を最小化し、相互連携で強靭なまちを形成する。

《防災ビジョンのイメージ》



② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

ア　地域防災計画

つづくを、つなぐ。

☑ 方向性❸：市の防災体制の充実・強化を反映する

市本部体制の見直し（総合調整室の設置等）

- 迅速かつ的確に災害対応業務を遂行するため，
  全ての災害対策業務を統括する事務局として，
  新たに「総合調整室」を設置
- 総合調整室にはその役割ごとに5つの部を設置，
  さらに各部の下に班を設置し，
  本部の役割・責任を明確化

✓指揮命令系統や多種多様な災害情報の受伝達ルートを明確化

✓各部（事態対処班）での円滑な災害活動を下支え

《災害対策本部 指揮統制体制図イメージ》



② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

ア　地域防災計画

つづくを、つなぐ。

☑ 方向性❸：市の防災体制の充実・強化を反映する

風水害時における職員配備体制の見直し

- 令和8年千葉豪雨での教訓を踏まえ，

  防災気象情報に応じた配備体制に変更　「レベル4大雨危険警報/氾濫危険警報」で災害対策本部第一配備　※（全職員の1/6以上参集）

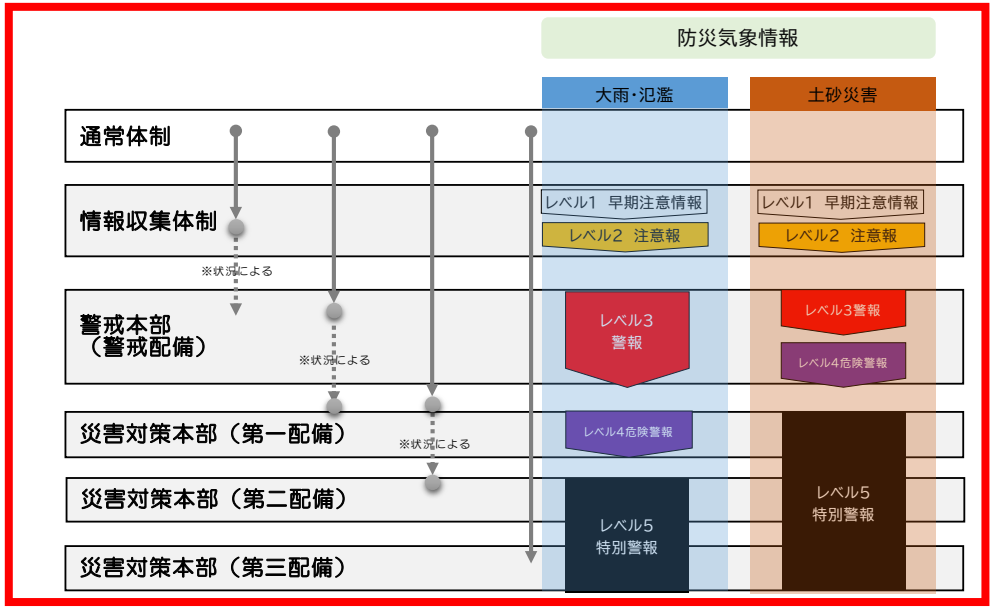
  とすることで，より迅速に災害即応体制を構築

《現行計画の記載》

警戒本部	警戒配備	■大雨、洪水、暴風、大雪等の警報が発表されたとき（自動配備） ■その他の状況により市長が必要と認めたとき	■危機管理部・総務部・広報部・市民生活部・経済産業部・都市部・土木部・上下水道局の警戒配備職員及び当該部で必要とする職員 ■配備検討会議での決定または警戒本部の指示による （※2）（※3）
災害対策本部	第一配備	■市域に重大な災害が発生する恐れがあるとき ■その他の状況により市長（本部長）が必要と認めたとき	全職員の１／６以上 （※2）（※4）
	第二配備	■市域に重大な災害が発生したとき ■柏市に気象に関する特別警報が発表されたとき（自動配備） ■その他の状況により市長（本部長）が必要と認めたとき	全職員の１／２以上 （※2）（※4）

「状況により」，
「重大な災害が発生する恐れがあるとき」等，
判断基準があいまいな表現であった

《改定計画の記載案》



改定計画では，気象警報と市の本部体制・配備体制を連動させ，

判断基準を明確化し，より迅速な体制構築につなげる

※累加雨量，浸水・現場状況によって防災気象情報にかかわらず体制をとる場合があります。

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

イ　防災タイムライン

つづくを、つなぐ。

【目的】
「いつ」・「だれが」・「何をするか」を可視化
（住民ひとりひとりが状況に応じ，適切な避難行動・防災対策がとれることを目指す）

編	構　成	特　徴
地 震 編	**地震への即時対応から復旧・復興期までの時系列ごとの対応** ・直後～3分，30分，3時間，1日⇒命を守る行動 ・～3日，1週間⇒安全な生活環境を確保する ・～1ヶ月⇒暮らしの再建を考える ・1ヶ月以降⇒生活再建とつながり再構築	**① 平易で直感的な表現** 短く簡易な単語と視覚的な見やすさを重視 **②自助を軸に共助・公助と連動** 住民（自助）の動きをメイン軸とし町会・自主防災（共助）や市・防災関係機関（公助）の連動性を時間軸で可視化 **③ウェブへの誘導** 紙面は要点に絞り、「もっと詳しく知りたい」住民をQRコードで各種Web情報へ導く
風 水 害 編	**警戒レベルの上昇に合わせた避難行動** ・警戒レベル1・2⇒災害への心構えを高める，避難行動を確認する ・警戒レベル3⇒危険な場所から高齢者等は避難 ・警戒レベル4⇒危険な場所から全員避難 ・警戒レベル5⇒直ちに安全確保　（その後復旧対応へ）	
日頃の備え編	**防災力を高める日頃の準備プログラム** ・災害対応への理解，知識共有 ・地震，風水害への事前の備え ・避難生活以降の備え	

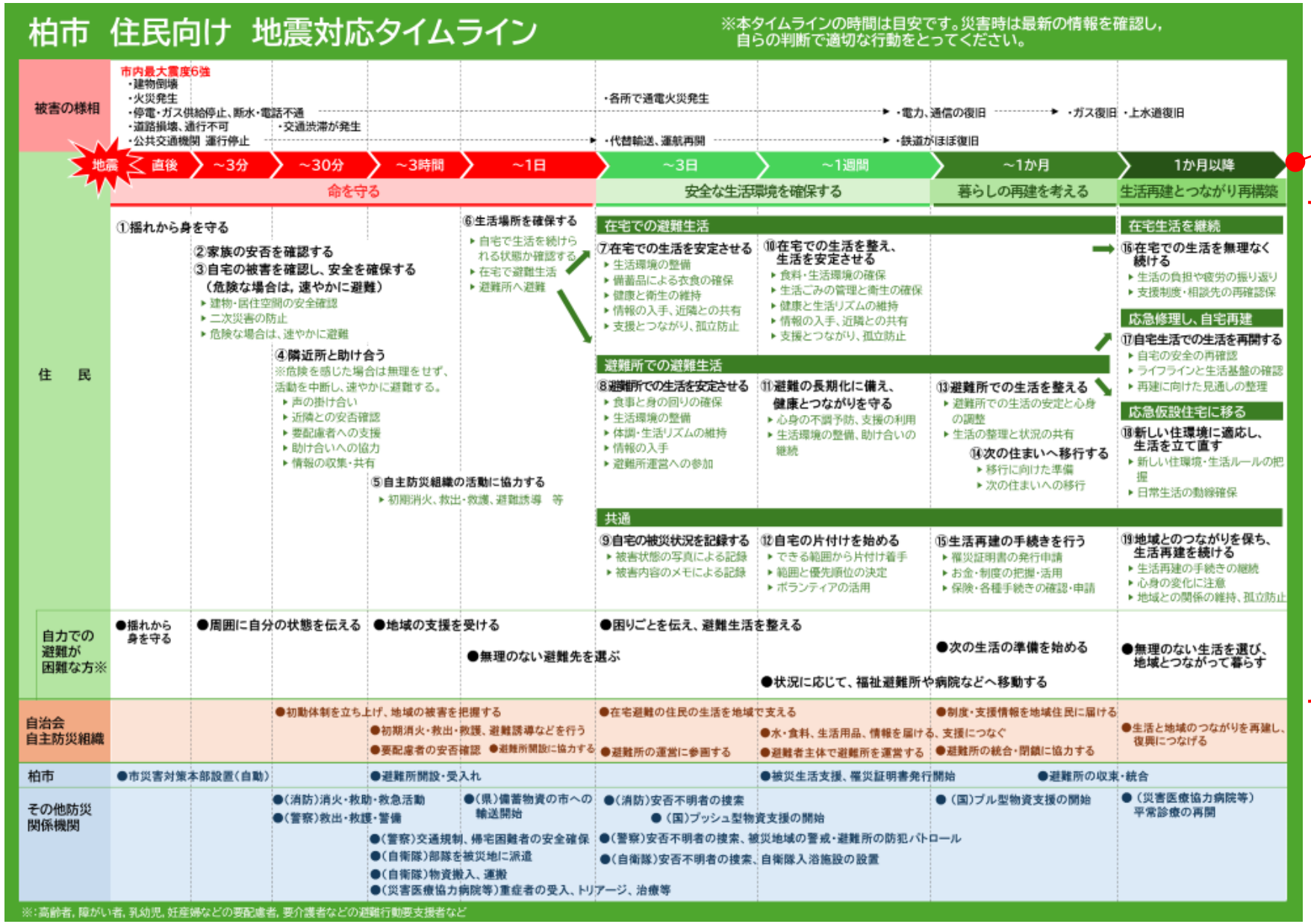
＋ 令和８年熊本地震
令和８年８月千葉豪雨
の教訓を活かす

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

イ　防災タイムライン

つづくを、つなぐ。

地震対応タイムライン



・住民
・自治会
・自主防災組織
・公共団体
を主体別に表示

地震発生直後の対応から生活再建までを時間軸で示す

住民に関しては，
避難生活から生活再建まで，
必要となっていく事柄を
在宅／避難所などの状況別と
共通事項をタイムラインで表示

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

イ　防災タイムライン

地震対応
タイムライン
（詳細版）



タイムラインの中項目ごとの
対応内容や意識すべきポイントを列挙して表示

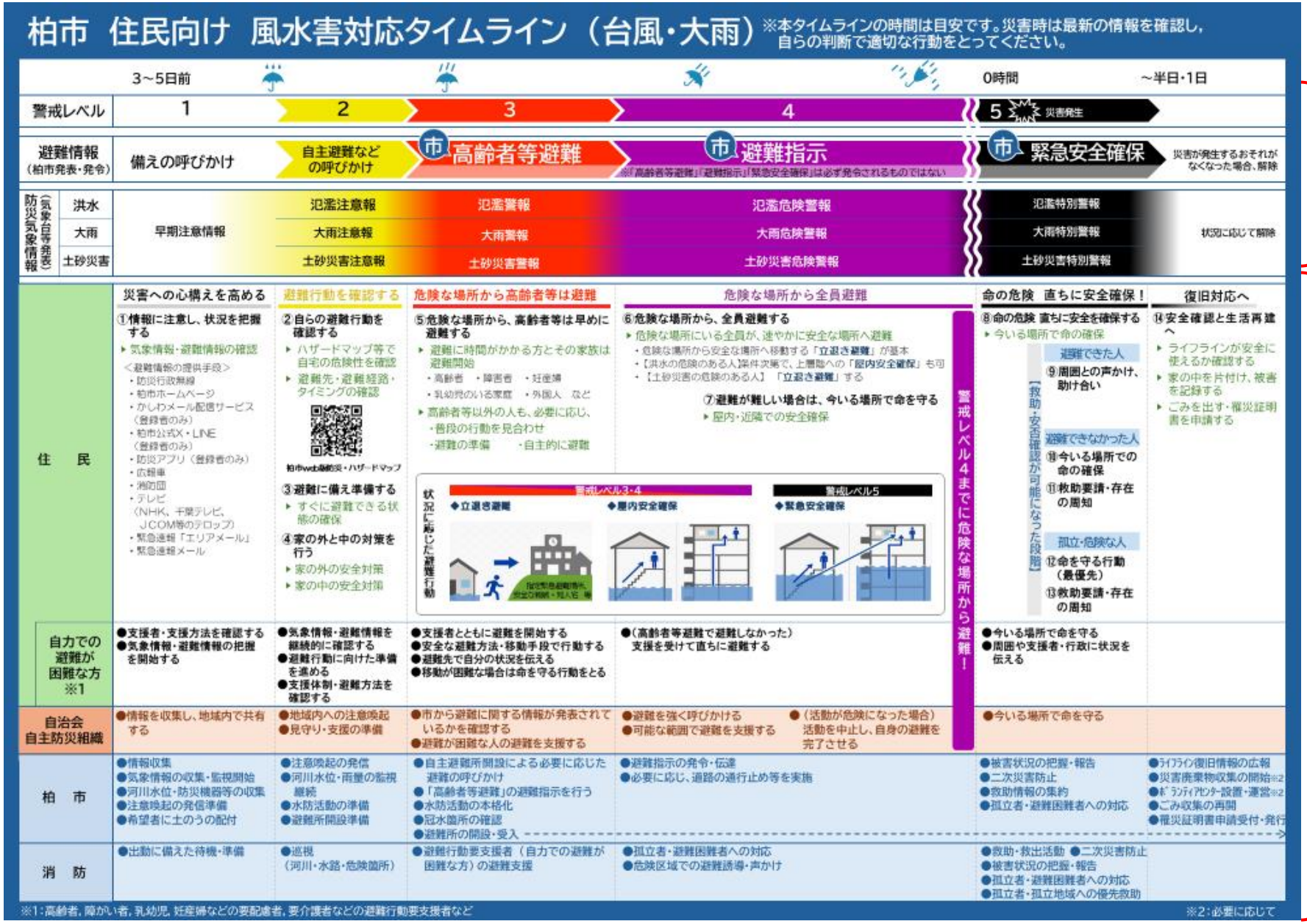
市、防災関係機関については，
市民に関連の深い情報を中心に
項目を列挙して表示

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

イ　防災タイムライン

つづくを、つなぐ。

風水害対応タイムライン



台風等による大雨を想定し，
災害発生までの
警戒レベル，避難情報，防災気象情報の移行を時間軸で表示

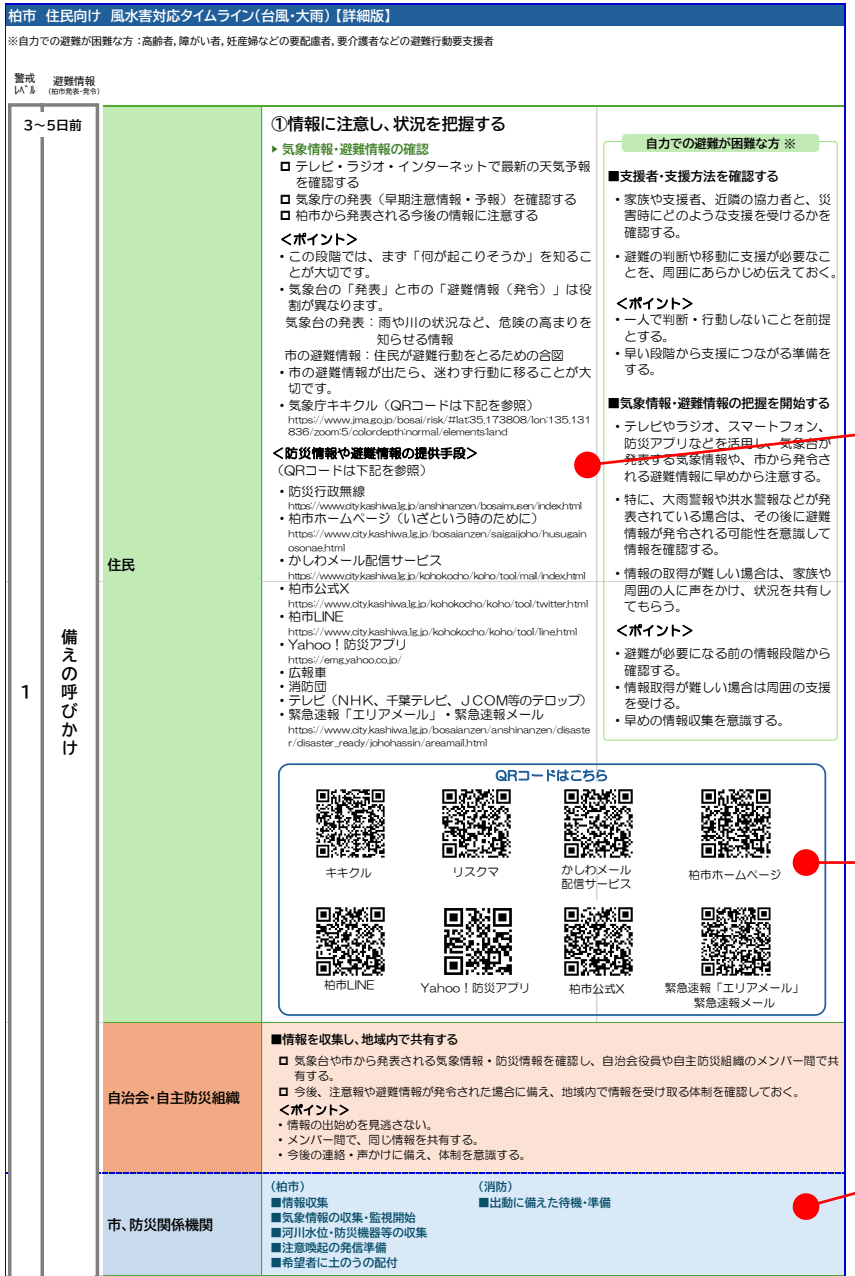
・住民
・自治会
・自主防災組織
・公共団体
を主体別に表示

風水害発生前の準備から
発生後の対応を時間軸で示す

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

イ　防災タイムライン

風水害対応タイムライン（詳細版）



柏市　住民向け　風水害対応タイムライン（台風・大雨）【詳細版】

※自力での避難が困難な方：高齢者，障がい者，妊産婦などの要配慮者，要介護者などの避難行動要支援者

警戒レベル　避難情報（柏市発表・発令）

3～5日前

1　備えの呼びかけ

住民

①情報に注意し、状況を把握する

▸気象情報・避難情報の確認

- □ テレビ・ラジオ・インターネットで最新の天気予報を確認する
- □ 気象庁の発表（早期注意情報・予報）を確認する
- □ 柏市から発表される今後の情報に注意する

＜ポイント＞
- この段階では、まず「何が起こりそうか」を知ることが大切です。
- 気象台の「発表」と市の「避難情報（発令）」は役割が異なります。
  気象台の発表：雨や川の状況など、危険の高まりを知らせる情報
  市の避難情報：住民が避難行動をとるための合図
- 市の避難情報が出たら、迷わず行動に移ることが大切です。
- 気象庁キキクル（QRコードは下記を参照）
  https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#lat:35.173808/lon:135.131836/zoom:5/colordepth:normal/elements:land

＜防災情報や避難情報の提供手段＞
（QRコードは下記を参照）
- 防災行政無線
  https://www.city.kashiwa.lg.jp/anshinanzen/bosaimusen/index.html
- 柏市ホームページ（いざという時のために）
  https://www.city.kashiwa.lg.jp/bosaianzen/saigaijoho/husugaisonae.html
- かしわメール配信サービス
  https://www.city.kashiwa.lg.jp/kohokocho/koho/tool/mail/index.html
- 柏市公式X
  https://www.city.kashiwa.lg.jp/kohokocho/koho/tool/twitter.html
- 柏市LINE
  https://www.city.kashiwa.lg.jp/kohokocho/koho/tool/line.html
- Yahoo！防災アプリ
  https://emg.yahoo.co.jp/
- 広報車
- 消防団
- テレビ（NHK、千葉テレビ、ＪCOM等のテロップ）
- 緊急速報「エリアメール」・緊急速報メール
  https://www.city.kashiwa.lg.jp/bosaianzen/anshinanzen/disaster/disaster_ready/johohassin/areamail.html

自力での避難が困難な方 ※

■支援者・支援方法を確認する
- 家族や支援者、近隣の協力者と、災害時にどのような支援を受けるかを確認する。
- 避難の判断や移動に支援が必要なことを、周囲にあらかじめ伝えておく。

＜ポイント＞
- 一人で判断・行動しないことを前提とする。
- 早い段階から支援につながる準備をする。

■気象情報・避難情報の把握を開始する
- テレビやラジオ、スマートフォン、防災アプリなどを活用し、気象台が発表する気象情報や、市から発令される避難情報に早めから注意する。
- 特に、大雨警報や洪水警報などが発表されている場合は、その後に避難情報が発令される可能性を意識して情報を確認する。
- 情報の取得が難しい場合は、家族や周囲の人に声をかけ、状況を共有してもらう。

＜ポイント＞
- 避難が必要になる前の情報段階から確認する。
- 情報取得が難しい場合は周囲の支援を受ける。
- 早めの情報収集を意識する。

QRコードはこちら

キキクル　リスクマ　かしわメール配信サービス　柏市ホームページ

柏市LINE　Yahoo！防災アプリ　柏市公式X　緊急速報「エリアメール」緊急速報メール

自治会・自主防災組織

■情報を収集し、地域内で共有する
- □ 気象台や市から発表される気象情報・防災情報を確認し、自治会役員や自主防災組織のメンバー間で共有する。
- □ 今後、注意報や避難情報が発令された場合に備え、地域内で情報を受け取る体制を確認しておく。

＜ポイント＞
- 情報の出始めを見逃さない。
- メンバー間で、同じ情報を共有する。
- 今後の連絡・声かけに備え、体制を意識する。

市、防災関係機関

（柏市）
■情報収集
■気象情報の収集・監視開始
■河川水位・防災機器等の収集
■注意喚起の発信準備
■希望者に土のうの配付

（消防）
■出動に備えた待機・準備

タイムラインの中項目ごとに
対応内容や意識すべきポイントを列挙して表示

主体的に情報を取得できるよう
情報の取得先を二次元コードで表示

市、防災関係機関については，
市民に関連の深い情報を中心に
項目を列挙して表示

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

イ　防災タイムライン

つづくを、つなぐ。

日頃の備え

柏市 住民向け 日頃の備え

自助

災害対応の前提となる理解・知識・情報

●災害時に適切な判断をするために備える

〈災害リスクを理解する〉
- □ 自宅周辺の災害リスクを確認する
- □ ハザードマップを確認する
- □ 地震時と風水害時の危険箇所を確認する

〈避難先・避難方法を理解する〉
- □ 地震時の避難先を確認する
- □ 風水害時の避難先を確認する
- □ 避難経路を確認する
- □ 在宅避難できる条件を確認する

〈情報収集方法を確認する〉
- □ 災害情報の入手手段を確認する
- □ 防災行政無線、メール、アプリ等を活用する
- □ 停電時の情報入手方法を確認する

〈家族で対応を確認する〉
- □ 家族の連絡方法を決める
- □ 家族の集合場所を決める
- □ 災害時の役割分担を確認する



自力での避難が困難な方(以下,「要配慮者等」という。)※が支援を受ける方法を確認する
- □ 支援してくれる人を確認する
- □ 避難支援を受ける方法を確認する
- □ 個別避難計画を作成・確認する
- □ 福祉避難所等の利用方法を確認する

※高齢者, 障がい者, 乳幼児, 妊産婦などの要配慮者, 要介護者などの避難行動要支援者など

地震への備え

●命を守るために備える

〈住まいの安全を確保するために備える〉
- □ 住宅の耐震性を確認する
- □ 必要に応じて住宅を耐震化(補助金の活用を検討)する
- □ 家具・家電の転倒防止対策を行う
- □ ガラスの飛散防止対策を行う
- □ 安全な居場所を確保する
- □ 出入口や通路に物を置かない
- □ ブロック塀や門柱の安全対策を行う

〈地震火災を防ぐために備える〉
- □ 消火器を設置・点検する
- □ 感震ブレーカーを設置する
- □ 住宅用火災警報器を点検する

〈家族の安全のために備える〉
- □ 家族の安否確認方法を確認する
- □ 地震後の自宅の安全確認方法を確認する
- □ 近隣への声かけ方法を確認する

風水害への備え

●災害の危険を把握するために備える

〈風水害リスクを確認する〉
- □ 洪水浸水リスクを確認する
- □ 土砂災害リスクを確認する
- □ 内水氾濫や道路冠水のおそれを確認する
- □ 自宅が避難を要する場所か確認する

〈気象情報・避難情報を理解する〉
- □ 気象情報の入手方法を確認する
- □ 避難情報の入手方法を確認する
- □ 警戒レベルの意味を確認する

●早めに避難するために備える

〈避難のタイミングを確認する〉
- □ 自分や家族が避難を開始するタイミングを確認する
- □ 高齢者等避難の段階で避難が必要な家族がいるか確認する
- □ マイ・タイムラインを作成する

〈避難先・避難経路を確認する〉
- □ 風水害時の避難先を確認する
- □ 安全な避難経路を確認する
- □ 夜間や荒天時の避難を避けるため、早めに避難する考え方を確認する

●被害を軽減するために備える

〈住宅の浸水・強風対策を行う〉
- □ ベランダや屋外の飛散物対策を行う
- □ 排水溝や側溝を清掃する
- □ 土のう、止水版等による浸水対策を行う
- □ 強風対策を行う


土のう配布


止水板設置補助金

避難生活以降に備える

●安全な生活環境を確保するために備える

〈避難生活を送れるよう備える〉
- □ 水・食料を備蓄する
- □ 携帯トイレを備蓄する
- □ 非常持出品を準備する
- □ 生活用品を備蓄する

〈家族構成に応じて備える〉
- □ 乳幼児用品を備蓄する
- □ 高齢者用品を備蓄する
- □ 障害特性に応じた物資を備蓄する
- □ ペット用品を備蓄する

●暮らしの再建を考えるために備える

〈生活を継続できるよう備える〉
- □ 現金を準備する
- □ 地震保険・火災保険の補償内容を確認する
- □ 重要書類を保管する
- □ 自宅や家財の状況を記録する



〈住まいの再建に備える〉
- □ 住宅の応急修理制度を理解する
- □ 応急仮設住宅等の住まいの確保策を理解する
- □ 住宅再建に関する支援制度を理解する

●生活再建とつながりの再構築に備える

〈被災者支援制度を理解する〉
- □ 罹災証明書の役割を理解する
- □ 被災者支援制度を理解する
- □ 被災後に必要となる主な手続を確認する

〈地域とのつながりを維持する〉
- □ 地域活動や支援制度を確認する
- □ 地域との関わり方を確認する

要配慮者等が生活を継続できるよう備える
- □ 常備薬を備蓄する
- □ お薬手帳等を整理する
- □ 医療機器等の停電対策を確認する
- □ 福祉サービスの代替手段を確認する

共助

災害対応の前提となる理解・知識・情報

●地域で災害に備える

〈地域のリスクを共有する〉
- □ 地域の災害リスクを確認する
- □ 地域の危険箇所を確認する
- □ 避難先・避難経路を確認する



〈地域のつながりをつくる〉
- □ 近所で顔の見える関係をつくる
- □ 町会・自治会活動に参加する
- □ 防災訓練に参加する

要配慮者等支援の体制を確認する
- □ 要配慮者を把握する
- □ 支援者を確認する
- □ 避難支援方法を確認する

地震への備え

●地域で命を守るために備える

〈発災直後に助け合うために備える〉
- □ 安否確認方法を確認する
- □ 初期消火訓練を行う
- □ 救出・救護訓練を行う
- □ 避難支援体制を整える

〈地域の危険箇所を把握する〉
- □ 倒壊のおそれがある箇所を確認する
- □ 火災危険箇所を確認する

風水害への備え

●早めの避難を支えるために備える

〈避難支援に備える〉
- □ 避難情報の共有方法を確認する
- □ 要配慮者への声かけ方法を確認する
- □ 避難支援体制を確認する

●地域の被害を軽減するために備える

〈地域の危険個所を確認する〉
- □ 側溝や排水設備の状況を確認する
- □ 飛散物や倒木のおそれがある箇所を確認する
- □ 地域で注意喚起を行う方法を確認する

避難生活以降に備える

●安全な生活環境を確保するために備える

〈地域で避難生活を支える〉
- □ 避難所運営に協力する
- □ 在宅避難者への支援方法を確認する
- □ 支援物資の配布方法を確認する

●暮らしの再建を考えるために備える

〈地域の防災体制を維持する〉
- □ 自主防災組織の活動に参加する
- □ 防災資機材を備蓄・点検する

〈被災者支援に協力する〉
- □ 地域の支援体制を確認する
- □ 要配慮者への継続支援方法を確認する

●生活再建とつながりの再構築に備える

〈地域コミュニティを維持する〉
- □ 地区防災計画を作成・確認する
- □ 地域活動への参加体制を確認する
- □ 地域の見守り体制を確認する

市民一人ひとりが
自助の取り組みの中で
災害に対してできる備えを
項目別に整理して表示

要配慮者については,
災害に対して特に準備して
おくべき事項を記載

自治会や自主防災組織が
共助の取り組みの中で
災害に対してすべき備えを
項目別に整理して表示

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

イ　防災タイムライン

つづくを、つなぐ。

目的

令和8年8月千葉豪雨の教訓(※)を活かし，市民が迷わず動くための標準的な指針を示す

（※令和8年8月千葉豪雨では、急激な状況変化に対して市民が「いつ・どこへ・どう避難すべきか」判断に迷う課題が顕在化）

位置付け・役割

防災タイムラインは，個人の感や経験に頼らない **柏市における避難行動のスタンダード（ひな形）**

時系列（フェーズ）の整理

災害発生の数日前～復旧期まで、時間の経過に応じた行動手順を明確に区分・定義します。

三助（自助・共助・公助）統合

住民の「自助」を中心に、町会等の「共助」、市・消防等の「公助」の動きを同一軸で可視化します。

「マイタイムライン」の基盤

市民各自が自分の行動計画を作成する際の「信頼できるベース（下敷き）」として機能します。

ポイント!

市民が「市や地域の動き」と「自分のなすべき行動」をセットで把握できるため，避難の空振りを恐れず早期避難に移れる心理的後押しとなる。
行政が一方的に避難指示を出すだけでなく，市民自身がリスクを正しく理解し，自発的に避難する**「主体的な防災行動」へシフト**させる。

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

つづくを、つなぐ。

最終ゴール：マイタイムラインの普及促進

防災タイムラインは，防災ガイドブックと統合した上で標準的なひな型として市民へ示しつつ，
「我が家のマイタイムライン」の作成を支援

普及促進Plan（案）　※令和9年度～

1. 全戸配布＆簡易シート

全市タイムラインをベースに、チェックボックス選択形式で「初心者でも5分で作れるワークシート」を作成し全世帯へ配布。

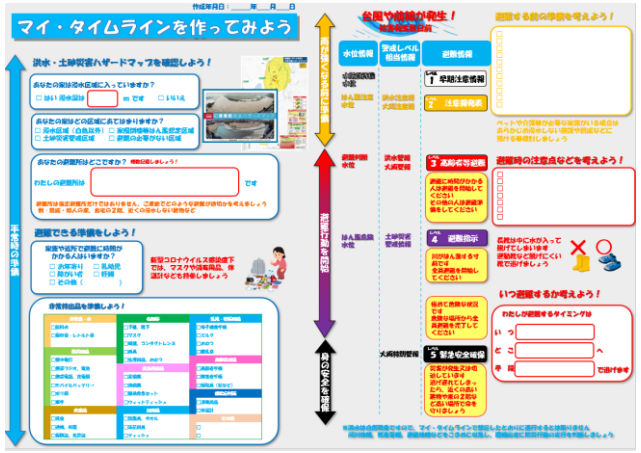
2. 学校・地域体験ワーク

小中学校の防災授業や町会・自治会の訓練で「家族で作る体験型ワークショップ」を実施。世代を超えた作成を促進。

3. デジタル・LINE連動

柏市公式LINEやWebハザードマップと連動し、スマホ上で質問に答えるだけで画面保存できるデジタルツールを構築。

（参考）新潟県作成シート



（参考）新潟県マイ・タイムライン教室



（参考）藤枝市デジタル版 マイ・タイムライン



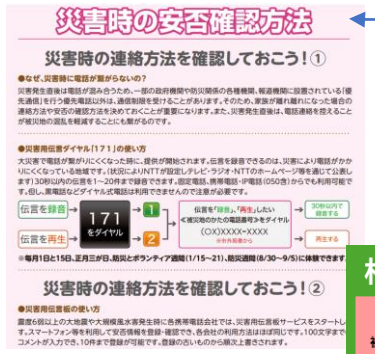
② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

イ　防災タイムライン

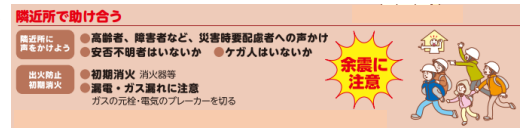
（令和9年度～）防災ガイドブックと一体的な運用を想定

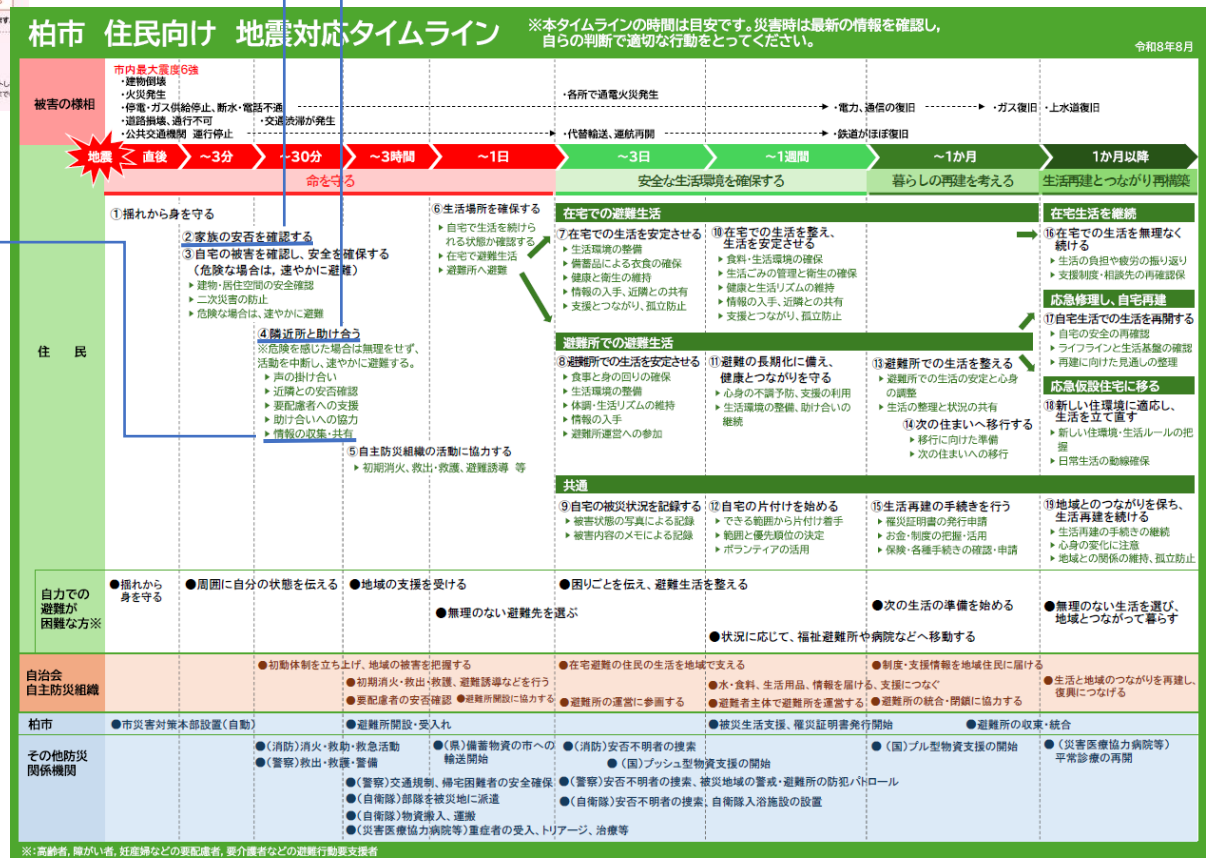
■ 防災タイムライン　＝　災害活動のアウトライン
■ 防災ガイドブック　＝　活動する上での詳細情報・ツール等











② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

ウ　地域防災計画・防災タイムライン

つづくを、つなぐ。

多様な意見の反映：各種アンケート・意見交換会等の実施状況

市民・職員から1,800件を超える「生の声」を集約・分析し、柏市地域防災計画，柏市防災タイムラインに反映しています。

【1】ふるさと協議会・町会アンケート

ふるさと協議会・町会アンケート
42 件
・「いつ 誰が 何をすべきか」の整理が必要（約80%）
・ 図やイラストなど分かりやすく（約80%）
・ 特に支援が必要な対象：高齢者、障がい者

【2】女性消防団意見交換会

多様性（女性）の視点
13 名（2グループ）
・女性や子どもに配慮した体制の必要性
・更衣室・授乳室等プライバシー不安
・女性向け備蓄品の不足

【3】職員防災アンケート

全庁的な現状・課題抽出
1,784 件（職員1,068件 / 市民716件）
・対応経験「なし」の職員（約60%）
・事前の備えのプラットホーム整備が必要（約60%）
・ 要配慮対策（高齢者や障がい者、妊産婦、外国人等）が必要（約40%）

【4】防災業務経験職員等意見交換会

全市体制強化
19名（4グループ）
・防災訓練の推進実施
・ 多様な人材の確保
・地域、学校、家庭等の防災意識底上げ

【5】被災地派遣振り返り座談会

被災地支援の実務教訓
23名（5グループ）
・ 避難所：他自治体応援者へのお任せ意識
・ 物資：在宅避難者からの配給不満、ニーズとの乖離
・ 物資：民間物流等との配送連携

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

ウ　地域防災計画・防災タイムライン

つづくを、つなぐ。

【1】【2】・【3】の一部：地域・女性・市民視点の反映

多様な意見の反映：地域社会の多様な声と『避難の自分ごと化』

テーマ	現場の意見・課題・数値	地域防災計画の対応箇所	防災タイムラインの対応箇所
【1】 ふるさと協議会及び町会 （地域の声）	【町会アンケートの意見 】 ・「いつ 誰が 何をすべきか」の整理が必要（約80%） ・図やイラストなど分かりやすく（約80%） ・特に支援が必要な対象：高齢者・障がい者（約80%）	【地域防災計画での対応箇所】 ・自助/共助/公助の役割明確化（予防第2章第1節） ・避難所運営組織の役割と構成（資料34） ー ・避難行動要支援者の範囲・現況（資料35・36） ・要配慮者の安全対策、支援体制の整備（予防第2章第7節）	【防災タイムラインでの行動】 ・災害直後からの動きを主体別に「直後」「～3分」「～30分」「～3時間」と細分化 ・フェーズごとに分かりやすい配色、避難行動を図示、ピクトグラムで工夫 ・要配慮者専用の「自助避難困難な方※」独立ラインを整備
【2】 女性視点 （多様性）	【現場の意見・課題 】 ・女性や子どもに配慮した体制の必要性 ・更衣室や授乳室等プライバシー空間の確保 ・女性向け備蓄品（生理用品や乳児用品等）の不足	【地域防災計画での対応箇所】 ・男女共同参画の視点を踏まえた体制、女性職員の登用（予防第2章第5節-1-（2）、（12） ・避難所の施設整備時の整備留意点（資料14） ・主な備蓄品の目標と実績（資料26）	【防災タイムラインでの行動】 ー ・地震：住民【～3日・～1週間】避難所生活安定タスクに　「□生活環境の整備」「□身の回りの確保」・自主防災【～1週間】：「●生活用品を届ける」を整備
【3】 市民視点 （市民の声）	【職員アンケートの課題 】 ・事前の備えで何をすべきか分かる情報プラットホームが必要（約60%） ・要配慮対策（高齢者や障がい者、妊産婦、外国人等）が必要（約40%）	【地域防災計画での対応箇所】 ー ・要配慮者の安全対策、支援体制の整備（予防第2章第7節）	【防災タイムラインでの行動】 ・防災タイムラインに日頃の備え編を整備 ・日頃の備え：「要配慮者支援の体制を確認する」を整備

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

ウ　地域防災計画・防災タイムライン

つづくを、つなぐ。

【3】の一部・【4】：平時からの教育・訓練の反映

多様な意見の反映：平時からの意識改革と能動的な避難訓練・教育体制の構築

テーマ	現場の意見・課題・数値	地域防災計画の対応箇所	防災タイムラインの対応箇所
【3】職員、市民視点（意識改革）	**【職員アンケートの課題 】** ・ 職員：災害対応経験「なし」の職員が約（約60%）「自分がどう動くべきかイメージが湧かない」との不安 ・市民：自宅の備蓄品の確保が不足（約70%） ・市民：災害時に必要な情報や，家族間の取り決めの不足（約50%）	**【地域防災計画での対応箇所】** ・職員アクションプランの整備・強化（予防第2章第5節-（6）） ・ 日常と災害の連動・フェーズフリーの視点（総則第1章） ー ・個人・家庭等における防災啓発、防災教育（予防第2章第1節1（1））	**【防災タイムラインでの行動】** ・住民・自治会等・柏市・関係機関ごとにラインを整備 ー ・ 日頃の備え：「避難生活以降に備える」を整備 ・日頃の備え：「災害対応の前提となる理解・知識・情報、」を整備
【4】防災業務経験職員等の提言（教育・訓練）	**【意見交換会での提言 】** ・市部局別での実働的な防災訓練の推進や実施 ・ 防災士資格取得、多様な人材を確保 ・地域、学校、家庭等の防災意識の底上げが必要	**【地域防災計画での対応箇所】** ・職員アクションプランの整備・強化（予防第2章第5節-（6）） ・市が行う訓練（予防第2章第1節4-（1） ・ 多様な人材の確保・育成（予防第2章第1節-3） ・地域、学校、家庭等への防災知識の普及啓発（予防第2章第1節1）	**【防災タイムラインでの行動】** ー ー ー ・日頃の備え：「防災訓練への参加」、「自主防災組織の活動への参加」、「地区防災計画の作成、確認」を整備

② 計画・タイムライン改定・策定のポイント

ウ　地域防災計画・防災タイムライン

【5】:発災時の経験を反映

多様な意見の反映:実務経験の教訓を反映した災害現場対処

テーマ	現場の意見・課題・数値	地域防災計画の対応箇所	防災タイムラインの対応箇所
【5】被災地支援経験者（避難所運営・物資）	**【被災地派遣職員の教訓 】** ・避難所:他自治体応援者へのお任せ意識 ・物資:在宅避難者からの配給不満、ニーズとの乖離 ・物資:民間物流等との配送連携	**【地域防災計画での対応箇所】** ・避難所運営組織の役割と構成（資料34） ・避難所の施設整備時の留意点（資料14） ・防災関係機関との連携強化（予防第2章第5節-1-(3)）	**【防災タイムラインでの行動】** ・自治会・自主防災【避難者主体の避難所運営】を整備 ・「避難所生活」と「在宅避難生活」それぞれのラインを明示 ・自治会・自主防災:「在宅避難者の生活を地域で支える」・関係機関:「自衛隊・県・国の物資支援物流の段階化」を整備

③ 柏市防災体制構築へ向けたロードマップ



⑧R8年度第2回防災会議
目的：改定内容に関する最終確認
前回会議の提言及びパブリックコメントを踏まえた柏市地域防災計画・全市タイムライン・職員アクションプランを提示

⑨柏市地域防災計画・タイムライン・アクションプラン　運用開始
地域・関係者・庁内が把握した柏市地域防災計画・全市タイムライン・職員アクションプランが完成し、災害時、能動的に動ける防災体制を運用開始

⑦計画案のパブリックコメント
市民の皆様に柏市地域防災計画・全市タイムラインに対するパブリックコメントをもらう

⑤意見集約結果の共有・確認
地域・関係者・庁内の意見を共有し、理解を得る

④地域・関係者・庁内からの意見集約
地域・関係者・庁内に対し計画改定案について、意見集約

⑥R8年度第1回防災会議
目的：改定内容に関する確認
関係機関からの意見集約した初稿としての柏市地域防災計画・全市タイムライン・職員アクションプランを提示

③地域・関係者・庁内に説明
柏市防災が課題に対して、取り組む必要性について、地域・関係者・庁内に対して共通理解を図る

②「素案」を作成・納品
柏市地域防災計画の修正を踏まえ、それに基づいた柏市地域防災計画・全市タイムライン・職員アクションプランの地域・関係者・庁内向けの改定計画の協議案を納品

①R7年度防災会議
目的：課題の共通理解と今後の進め方の共有
今後、全市的に防災体制強化を進めるため、
- **「実行性のある防災体制の構築が必要」**
- **「いつ・だれが・どこで・何をするか」を明確にした計画**
- **平時からの訓練の実施**

の重要性を確認する